第３回　淡路市総合計画審議会
議事要旨

日時：令和８年６月８日（月）午後２時 00 分～午後４時 00 分
場所：淡路市役所本庁１号館２階大会議室１、２、３

出席者
出席委員：城下委員、小田委員、岡田委員、長瀬委員、岬　委員、土井委員、
相坂委員、津田委員、米山委員、堀内委員、中野委員、井筒委員
関　委員、大場委員、江川委員、廣田委員

欠席委員：田中委員、魚住委員
事 務 局：野田部長、平本課長、宇城係長、髙田主査、(株)ぎょうせい１名

配布資料
資料-１　第３回淡路市総合計画審議会次第
資料-２　第２回審議会意見について
資料-３　総合計画策定に伴う若手職員ワークショップ実施報告書
資料-４　基本構想案（5.29）
資料-５　補足説明資料

次第
１　開会
平本課長あいさつ
井筒委員あいさつ
宇城係長紹介

２　会長あいさつ
津田会長よりあいさつ。

３　報告事項
（１）前回意見の反映について

（２）総合計画策定に伴う若手職員のワークショップについて

資料２及び資料３を用いて、事務局より報告

会長　　：今の報告を受けて何かご質問等あるか。ワークショップを通じて、若手職員の意見を吸い上げ、まちづくりに反映するため、庁内横断的に取り組まれている。まちづくりの共通課題を認識しながら取り組んでいくことは重要と考える。今後も継続して取り組まれることを期待したい。

意見なし

会長　　：次に移る。

4　協議事項

（1）第3次総合計画基本構想案について

事務局より、資料4及び資料5の説明。

会長　　：今の報告を受けて何かご質問等あるか。

委員　　：淡路市は海に囲まれているが、提示されたキャッチコピーの図案では中央に「玉ねぎ」が配置されており、海に関連する要素が入っていないのではないか。淡路島全体を象徴するものとしては良いが、淡路市らしさをもう少し出してほしい。

事務局　：補足資料の写真は、現段階では「となりゾートあわじ」で使用しているイメージ写真を仮に並べたもので、ロゴとの直接的な関係はない。今後は海産物など、他の分野の要素も入れるよう検討する。

委員　　：今回の基本構想については、若い感性を取り入れた斬新な内容だと評価する。一方で、少子高齢化や人口減少の課題については、現代社会の生きづらさ、ストレス、経済的貧困、コミュニティの希薄化といった実態をより掘り下げて記述すべきではないか。シングルマザーや孤独を感じる高齢者、障害者など、困難を抱える人に優しいまちづくりの視点を加えてほしい。

事務局　：人口減少対策について、具体的な分析や対策については、今後「総合戦略」の中で詳細に示していく予定である。今後、令和7年国勢調査の結果に基づき、若者の流出をどう食い止めるか、どの規模で人口を維持するかといった目標設定を議論していきたい。

会長　　：現状分析を行った上で、今後10年間の具体的な数値目標や政策を前面に打ち出すことが、計画を具体的に進める上で重要である。

事務局　：今回の国勢調査の結果から、淡路市において特に「若者の流出」が顕

著であることが改めて浮き彫りになった。こうした流出を食い止めるための政策は総合計画に記載していくが、具体的な人口目標については慎重な分析が必要である。資料 5 の 4 ページにあるシミュレーションにあるとおり、シミュレーションの条件設定によって目標の捉え方が変わる。今後は、これらのシミュレーションに基づいたグラフの内容を文書化し、淡路市の政策を実施する上での明確な目標として計画の中に示していきたい。

委員　：淡路市には大学、園芸学校、リハビリテーション専門学校がある。これらを活用した教育や市民との交流、学びの提案をもっと具体的に盛り込むべきだと考える。

事務局　：大学等との連携は定住政策や地域で子どもを育む分野で重要と考えている。具体的な内容は今後の計画策定の中で反映させていきたい。

委員　：22 の施策分野があるが、具体的な施策はいつ出るのか。

事務局　：現在は枠組みを決める段階で、具体的な施策については、基本計画で示していく。令和 8 年度中に完成させ、令和 9 年度からの計画とする予定となっている。また、総合計画は方向性を示すもので、より具体的な施策については、分野ごとの個別計画や総合戦略で示すものも出てくる。

委員　：ワークショップで出た若い人の意見は、実現可能な施策として抑えてほしい。

事務局　：ワークショップの提案は、予算を度外視して自由な意見を聞く場だったが、可能な限り形として反映させたい。なお、具体的な全施策をこの総合計画だけで示すのではなく、各分野の方向性に関連する約 80 の個別計画（子育て支援計画など）で記載していく。

委員　：More　Awaji の具体的な施策を展開してほしい

事務局　：将来像は、具体的な施策そのものではなく、これから市民の方々が育てていき、全員でもっと「暮らすほどに好きになるまち」を実現させていくためのキャッチコピーである。

委員　：農業従事者の平均年齢が 73～74 歳に達しており、儲かる職業でなければ若者は残らない。生活の利便性だけでなく、いかに人口を増やし、新規企業や職業を確保するかという視点を最優先にすべき。

委員　：10 年後を見据えた明るい展望は良いが、図中の「アーバンリトリート」などのカタカナ用語が市民に伝わるか疑問。また、ゾーニングの課題抽出のプロセスを説明してほしい。

事務局　：ゾーニングのネーミングについては、提案であり、ご意見を聞きなが

ら修正していきたいと考えている。ゾーニングは従来の旧町単位ではなく、地域の特性（西海岸の夕陽、東浦の都市機能など）に基づき、関係部署と検討して作成した。難しい言葉には解説を入れる予定。

委員　：現在進行中の都市計画マスタープランの見直しと今回のゾーニングの整合性は取れているのか。また、特定の地域（ゲートシティ周辺など）だけが手厚く、見捨てられるエリアが出るのではないかという懸念がある。

事務局　：都市計画マスタープランの事務局とは意見交換しており、整合性は取れている。総合計画では方向性を示し、その方向性を踏まえてマスタープランを策定していく。ゾーニングについては市長・副市長及び庁内会議で図った上で案を作成しており、地域に漏れがないよう配慮した案となっている。

委員　：若者が市内に残るためには、自動車がなくても通学・通勤できるバスの交通網の整備が不可欠と考える。昔の急行バスのような利便性を復活させるなど、交通機関の活用を計画に盛り込んでほしい。

委員　：今回の理念や将来像は非常に斬新で良いと感じている。先日、大阪から淡路市に移住してきた方と話す機会があったが、その方は「都会にはない豊かな自然が非常に魅力だ」と話し、その自然の中で農業を営んでいる。地元に住んでいると忘れがちな自然の良さを再認識させられた。また、先日「五斗長遺跡」でインバウンド対応をしている方の話では、これまでに海外 38 カ国からの方々が訪れているという。東南アジア、ヨーロッパ、アメリカなど、本当に多種多様な国から人が来ている。淡路市として、今後こうした国際的な視点も含めてまちづくりをしてほしい。

委員　：「共感する人を増やす」ではなく、自然に「共感が集まる」まちを目指すべき。7 ページの記述にある「交流人口」は、課題に挙げられている「関係人口」と同じ意味で使っているのか。

事務局　：文言については精査し、必要に応じて修正する。

委員　：基本構想案はすごく良いと思う。グランドデザインゾーンの「①ウェルカムサンセットゾーン」について、少しエリアとして、違和感がある。一工夫必要ではないか。

会長　：ゾーニングについては、色々意見あるので、庁内会議で再検討していただきたい。現段階の基本構想 1 ～ 4 については、ここまでとする。次に基本構想 5 ・ 6 について協議したい。

委員　：基本目標 1 と基本目標 3 にある「挑戦」という言葉の違いは何か。

事務局　：基本目標 1 は教育分野で人を育てる挑戦、基本目標 3 は産業分野で商工業や農業での新規就業などの活力という意図で使い分けているが、バランスを見て修正を検討する。

会長　　：今回の施策体系の中で、シティプロモーション等の横断的な分野もあるため、今回の若手職員ワークショップの結果を踏まえて、所感等をお願いしたい。

髙田主事：行政職員としての目線、日々の業務の課題、そして一市民としての自身の感覚を、10 年・20 年後の将来像として一つの計画に落とし込むことの難しさを痛感した。委員からの多様な意見を個別の「点」として終わらせるのではなく、未来へ続く「線や面」として捉え直し、淡路市や淡路島全体の将来を考えた政策に繋げていきたい。

会長　　：シティプロモーションは、総合計画の策定と並行で進んでいるわけではなく、総合計画よりは遅れ気味になる。この辺りはどのように進める予定か。

事務局　：同じ部内で連携しており、並行して進めている。まずはターゲット（年齢層や圏域）を決めることについて、検討中である。

委員　　：6 ページ（4）の文章が少しわかりづらい。観光と移住は切り離して記載するべきではないか。また「(関係人口)」は () が不要と考える。全体として「ブランド」という言葉が少し多用されすぎているのではないか。少しわかりづらくなっていると考える。ロゴの具体的な活用案として、市役所だけで盛り上げるのではなく、市民全体で展開していくべきと考える。その上で、市民や市内の会社などが、このロゴを無料（あるいは自由）に使えるようになっていくのか。

事務局　：（4）については、一度は淡路市を訪れてもらい、移住に結び付ける文章としたが、見直しを含めて検討する。ブランドは価値を高めることとして認識していただければと思う。価値を高めることの中心は市民であり、それぞれの市民の価値観によるものという意味で記載している。資料 5 自体はあくまで補足であり、計画にのるものではない。

事務局　：ロゴ使用に関しては商標登録や条例の整備も含めて検討していく。将来的に市の PR として広く申請・使用してもらえるような展開を考えている。

委員　　：淡路市は淡路島三市の中でも特に島外との行き来がしやすい立地であるため、その優位性を計画に反映させ、観光客のリピーターを増やすだけでなく、現代の多様なライフスタイルに合わせて、一人の人が拠点をいくつも持つ二地域居住などという暮らし方を関係人口の中に

具体的に含めるべき。

委員　　：計画案にある「新しいテクノロジーを活用した仕事の場の整備」という表現に対し、課題を科学技術の力だけで解決しようとする発想はもはや古いのではないか。技術には弊害もあるため、それよりも人との対話や新しい発想を重視し、できることから一つずつ実行していく書き方に工夫してほしい。市民アンケートの結果が、どのように今回のゾーニング案や具体的な項目に結びついたのか、その理論付けやプロセスを明確にすべきだと考える。将来像が市民の実感や課題感とフィットしていることが重要であり、市民が「自分たちのための計画だ」と納得できるような説明や表記が必要。

事務局　：ゾーニングの設定に関する具体的な課題や方向性は、これまでの地域の方々の声を反映させたものであり、決して市民の意見を無視したものではない。

委員　　：前回アンケート調査の概要をお示しいただいたが、概要だけでなく、できるだけ詳細な報告書を提供してほしい。

事務局　：アンケート結果報告書は 150 ページに及ぶ膨大な量であり、「単純集計」だけでなく、年代層ごとの傾向を分析する「クロス集計」を行っており、前回提示した集約資料が最も分かりやすいと考えている。

委員　　：アンケートから課題を抽出する際、市の強みを伸ばすのか弱みをカバーするのかという方針を明示すれば、計画とのつながりが分かりやすくなる。

会長　　：次回ご意見を踏まえたものにするため、追加等あれば事務局までいただきたい。

5　その他

（１）今後のスケジュールについて

事務局より説明。

意見等なし

6　閉会

以上